

真実を知ってください

クワック コカイン

クワック ベース
フリース
ボール

drugfreeworld.org

この小冊子が 制作された理由

街 中や学校、あるいはインターネットやテレビの中で、薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

そうした薬物情報の多くは、売人によって広められたものです。今では更生したかつての売人は「薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言っていた」と証言しています。

そのような情報にだまされないでください。薬物乱用という罠を避けるためには、事実を知る必要があります。この小冊子はそのために制作されたものです。

この小冊子をお読みになった上で、皆様のご意見やご感想をウェブサイト **drugfreeworld.org** から、またはEメール **info@drugfreeworld.org** までお寄せください。

クラック・コカインとは？

クラック・コカインは、結晶状のコカインのことです。もともとコカインは粉状*の薬物ですが、クラックは固まりや結晶の形で売られており、その色も黄色、桜色、白などさまざまです。

クラック（音を立てて割れる、裂けるという意味）という呼び名は、この薬物を熱した時に割れてパチパチという音を立てることから来ています。

クラックは、コカインの中でも最も強力な種類であり、また最も危険なものです。純度は75%~100%で、通常のコカインよりもずっと強力です。

クラックを喫煙すると、他の方法よりも早く脳に作用します。そのためすぐに強烈な高揚感が得られますが、その状態は15分ほどしか持続しません。さらにこの薬物を喫煙す

ると、鼻から吸引するよりも早く中毒になりやすく、たった1回の使用でも中毒になる可能性があります。

コカインは高価なため、長い間「金持ちの薬物」と思われてきました。一方でクラックは安い価格で販売されており、十代の若者でも買うことができます。しかし、それは最初のうちだけです。実際には、一度この薬物の中毒になると、常習癖を満足させるのに必要な量が増え、それに従って出費も際限なく増えていきます。

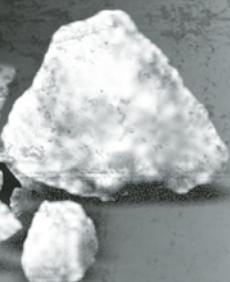


* 粉状のコカインについては、この小冊子シリーズの「真実を知ってください：コカイン」を参照してください。

クラック・コカインの通称

現 在、クラック・コカインには非常に多くの呼び名がありますが、最も一般的なのは以下のものです。

- 24-7
- アップルジャック
- バッドロック
- ボール
- ベース
- ビート
- キャンディー
- ケミカル
- クラウド
- クッキー
- クラック
- クラム
- クランチ & マンチ
- 悪魔の薬物
- ダイス
- エレクトリック・クールエイド
- ファットバッグ
- フレンチフライ
- グロー
- グラベル
- グリット
- ヘイル
- ハードボール
- ハード・ロック
- ホットケーキ
- アイスキューブ
- ジェリービーン
- クリプトナイト
- ナゲット
- ペイスト
- ピース
- プライムタイム
- プロダクト
- ロウ
- ロックス
- ロックスター
- ロクサーヌ
- スクラビー
- スリート
- スノーコーク
- シュガー・ブロック
- トボ
(スペイン語)
- トルネード
- トループ



「**私**は1年ほどクラック中毒になった彼と暮らしていました。私は彼のことを心から愛していました。でも、もう限界でした。

警察に呼び止められ調べられたこともあります。朝の6時に強制捜査されたこともあります。彼は絶え間なく盗みを働き、クラックを手放すことができませんでした。

私は、クラックはあのヘロインよりずっとたちが悪いドラッグだと思いました。たった1回吸っただけで、人の道を外れた残忍な人へと変えてしまうのです。」— オードリー

国際的な統計

2007年、アメリカ合衆国連邦裁判所では、5477人がクラック・コカイン絡みの犯罪で有罪になっています。そのうち95%はクラック・コカインの密売に関与していました。

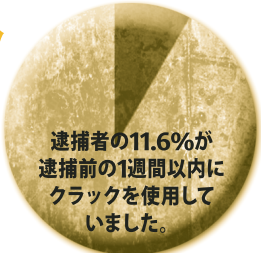
ヨーロッパでは状況は異なります。欧州薬物・薬物中毒監視センターの報告によると、クラック・コカインの乱用は大都市の少数民族コミュニティのみに集中しており、そこには共通して失業や貧困といった状況が存在します。2006年の報告によると、ヨーロッパの20の国で薬物中毒の治療のために入院した薬物常用者のうち、クラック・コカインの乱用者は2%にすぎませんでした。その大半はイギリス人でした。

アメリカ合衆国の2007年「薬物使用と健康に関する全国調査」によると、12歳以上のアメリカ人860万人がクラック・コカインを使用したことがあります。アンケートに回答した18歳から25歳までの若者のうち、6.9%が過去1年の間にクラックを使用したことがあると報告しています。2007年に合衆国政府が青少年を対象に実施したアンケート調査によると、高校3年生の3.2%が、クラック・コカインを使用した経験があると回答しています。

2006年にアメリカで薬物リハビリ施設に入院した人のうち、17万8475人がクラック・コカインを主に常用していました。これはコカイン中毒の治療のために入院した薬物常用者の71%に相当します。

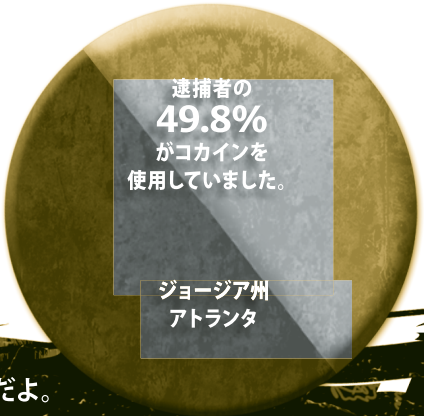


クラック と犯罪



逮捕者の11.6%が
逮捕前の1週間以内に
クラックを使用して
いました。

ハワイ ホノルル



逮捕者の
49.8%
がコカインを
使用していました。

ジョージア州
アトランタ

「のクラックってやつは、まったく自分勝手な薬だよ。

クラックは人生を支配してしまうんだ。

クラックは誰でもすぐにハマるし、時間も全然かからない。

こいつの禁断症状は半端じゃない。それに効き目が短いから、
どんどん使用回数が増えるんだ。」— ピーター

なぜクラック・コカインは そんなにも中毒性が高いのか？

クラック・コカインは、心理的な依存に陥りやすいという点に関して言えば、違法な薬物の中でも最も強力なもののひとつです。コカインは脳内の主な快楽中枢を刺激し、陶酔感を極度に高めます。コカインを喫煙すると、その活性成分が血液中にすぐに

取り込まれるため、この薬物を試す人はすぐに取り付かれたような乱用を始めます。クラック・コカインへの耐性は急速に高まるため、やがてクラック中毒者は、以前と同じ摂取量では同様の快楽を得られなくなります。



「**私**は毎週2千ドルも
コカインにつぎ込
んでおり、この呪縛から
自由になりたいと願って
いました…」

— ジェニファー



クラック・コカインの影響

クラック・コカインの短期的な影響

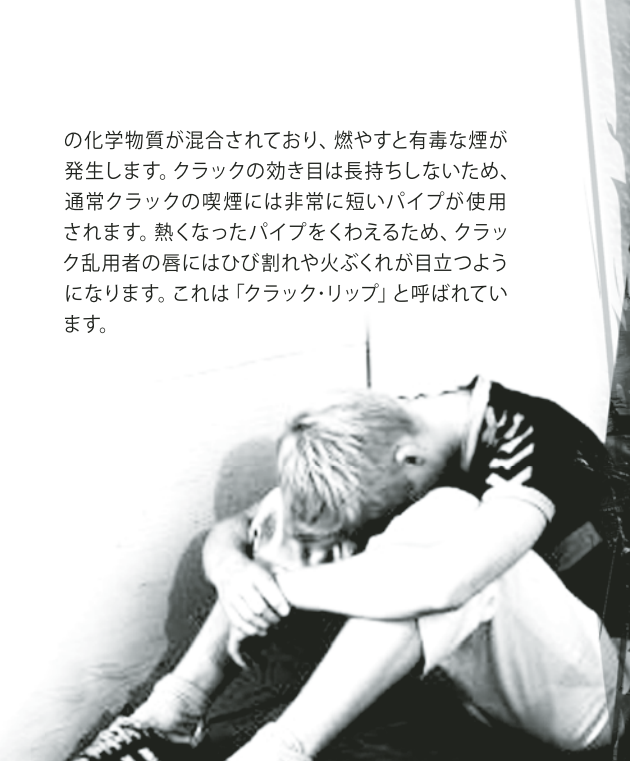
クラック・コカインを取ると、短時間の間、強烈な高揚感を体験しますが、すぐにひどい憂うつ感、いらだち、薬物へのさらなる切望があとに続きます。クラックの使用者は、食事や睡眠をきちんと取らなくなります。また心拍数の急激な増加や、筋肉のけいれんやひきつりを体験することがあります。この薬物を使う人は、「ハイ」な状態でない時でさえ、被害妄想*になったり、怒り、敵意や不安を感じます。

使用する量やその頻度に関係なく、クラック・コカインの使用者は、心臓発作や呼吸不全を起こす危険性が高くなり、突然死に至る場合もあります。

クラック・コカインの使用に伴う危険性は、喫煙することでさらに増加します。多くの場合クラックには他

* 被害妄想：他人に対して根拠のない疑い、不信任感、恐れを抱く状態のこと。



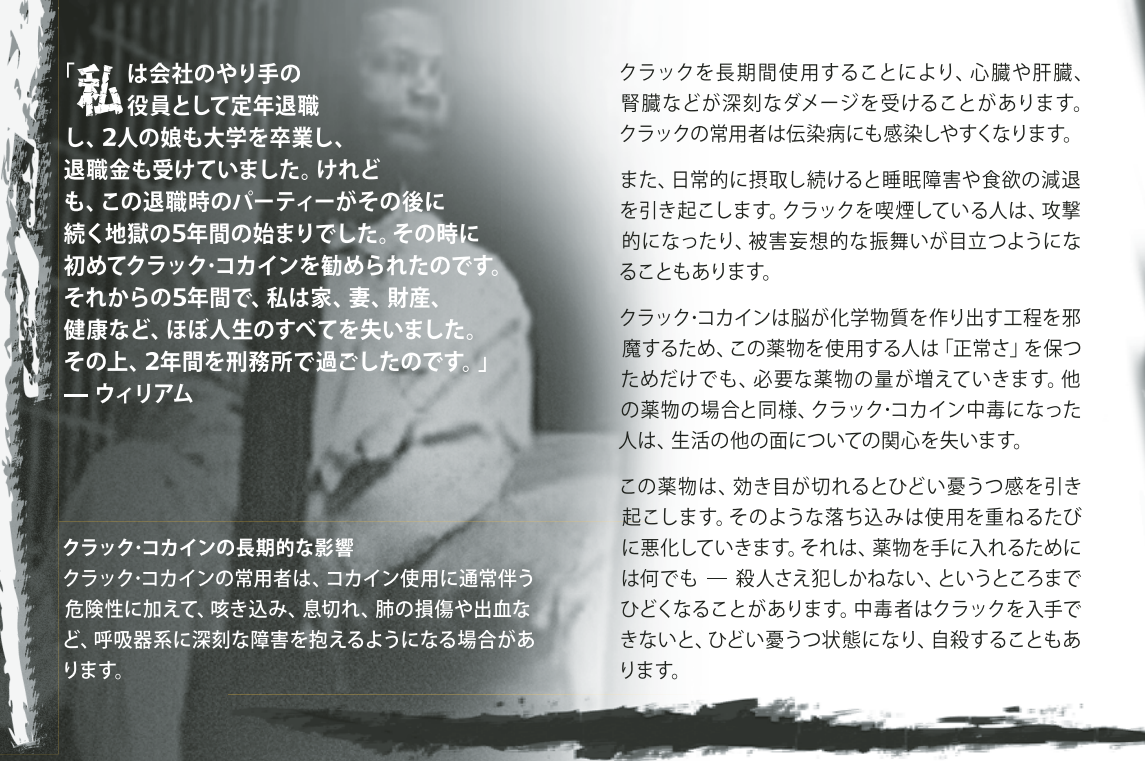


の化学物質が混合されており、燃やすと有毒な煙が発生します。クラックの効き目は長持ちしないため、通常クラックの喫煙には非常に短いパイプが使用されます。熱くなったパイプをくわえるため、クラック乱用者の唇にはひび割れや火ぶくれが目立つようになります。これは「クラック・リップ」と呼ばれています。

「**僕**の頭はクラック・コカイン一色だった。薬をやるよと誰かに言われたら、飛びかかってそれを奪い取るほどだった。飲まず食わずで何十キロも歩いた後に、ひとかけらのパンを差し出されるようなものだ…

何週間もクラックを吸い続けたあけく、ついに来るべき時が来た。ある日ふと、もう十分だ、もうこれ以上こんな生活は続けられないと思い、自殺を試みた。

僕は試練に立ち向かわなければならない…
生きたいという本能がよみがえってくればと願う。」— ジョン



「**私**は会社のやり手の
役員として定年退職
し、2人の娘も大学を卒業し、
退職金も受けていました。けれど
も、この退職時のパーティーがその後に
続く地獄の5年間の始まりでした。その時に
初めてクラック・コカインを勧められたのです。
それからの5年間で、私は家、妻、財産、
健康など、ほぼ人生のすべてを失いました。
その上、2年間を刑務所で過ごしたのです。」
— ウィリアム

クラック・コカインの長期的な影響

クラック・コカインの常用者は、コカイン使用に通常伴う
危険性に加えて、咳き込み、息切れ、肺の損傷や出血な
ど、呼吸器系に深刻な障害を抱えるようになる場合があり
ます。

クラックを長期間使用することにより、心臓や肝臓、
腎臓などが深刻なダメージを受けることがあります。
クラックの常用者は伝染病にも感染しやすくなります。

また、日常的に摂取し続けると睡眠障害や食欲の減退
を引き起こします。クラックを喫煙している人は、攻撃
的になったり、被害妄想的な振舞いが目立つようになる
こともあります。

クラック・コカインは脳が化学物質を作り出す工程を邪
魔するため、この薬物を使用する人は「正常さ」を保つ
ためだけでも、必要な薬物の量が増えていきます。他
の薬物の場合と同様、クラック・コカイン中毒になった
人は、生活の他の面についての関心を失います。

この薬物は、効き目が切れるとひどい憂うつ感を引き
起こします。そのような落ち込みは使用を重ねるたび
に悪化していきます。それは、薬物を手に入れるため
には何でも — 殺人さえ犯しかねない、というところまで
ひどくなる場合があります。中毒者はクラックを入手で
きないと、ひどい憂うつ状態になり、自殺することあり
ます。

身体や精神への影響

短期的な影響

クラック・コカインは喫煙によって使用されるため、その影響は粉状のコカインよりも早く現れ、しかもより強力です。

- 食欲の減退
- 心拍数、血圧、体温の上昇
- 血管の収縮
- 呼吸数の増加
- 瞳孔の拡大
- 睡眠障害
- 吐き気
- 極端な興奮
- 奇怪でとっぴな、時に暴力的な行動
- 幻覚症状、過度の興奮、過敏性
- 皮下に虫が這うような幻覚症状
- 強い陶酔感

- 不安と妄想
- 憂うつ感
- 薬物への激しい渴望
- パニック、精神異常
- 過剰摂取は（一度でさえ）けいれんや卒中、時に死をもたらすことがあります

長期的な影響

- 心臓および脳血管の永久的な損傷、心臓発作、卒中、死につながる高血圧
- 肝臓、腎臓、肺の損傷
- 胸部の強い痛み
- 呼吸器の障害
- 注射の場合、伝染病やはれもの
- 栄養失調、体重の減少
- 重度の虫歯
- 聴覚や触覚の幻覚症状

- 性的機能不全、生殖障害および生殖不能（男女とも）
- 無関心、無気力、混乱による極度の疲労
- 過敏性や情緒不安定
- 危険な行動の増加
- 一時的な精神錯乱あるいは精神異常
- ひどい憂うつ感
- 薬物への耐性の増加や中毒（一度きりの使用であっても）

子供たち、それは何の罪もない クラック・コカインの犠牲者たち

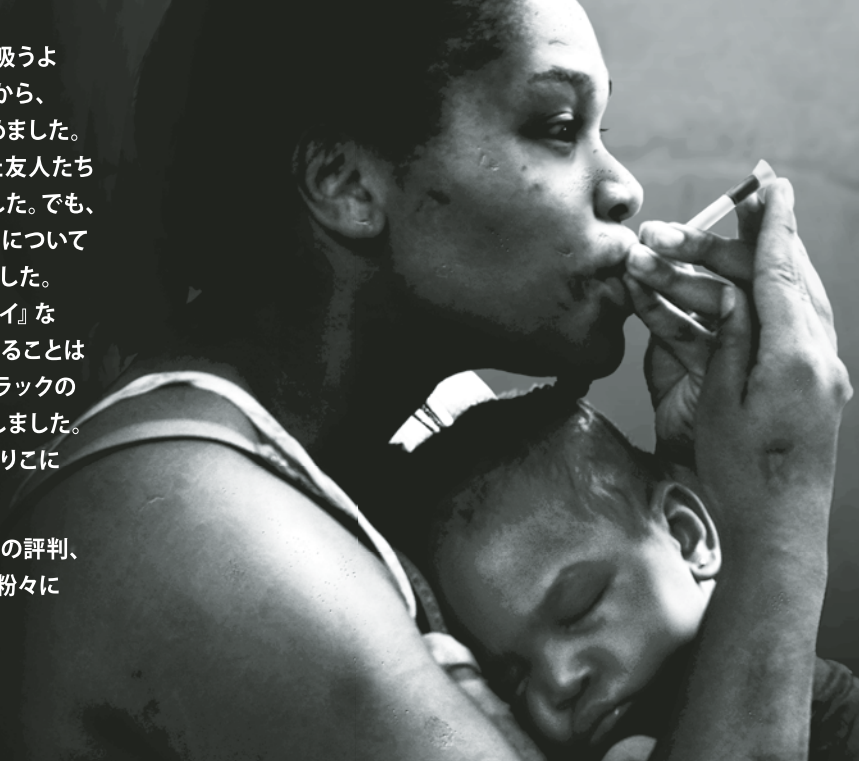
クラック・コカインの最も悲惨な犠牲者は、妊娠中にこの薬物を使用した母親から生まれた新生児です。妊娠中の母子の健康問題に取り組むアメリカ合衆国の非営利団体「マーチ・オブ・ダイムズ」の報告によると、妊娠中に粉状のコカインやクラック・コカインを使用することは、母体と胎児にさまざまな悪影響を及ぼす可能性があります。妊娠初期に使用すれば

流産の危険性が高まります。さらに、胎児の脳卒中や脳の永久的な損傷、あるいは心臓発作を引き起こす場合もあります。

アメリカ合衆国薬物乱用研究所は、妊娠中に胎児がクラック・コカインにさらされると、将来的に重大な問題が引き起こされる場合があると報告しています。

「**ク**ラック・コカインを吸うよ
うに勧められた時から、
すべての歯車が狂い始めました。
私は本当に仲の良かった友人たち
とうまういかなくなりました。でも、
その友人たちがクラックについて
言っていたことは本当でした。
初めて使用した時の『ハイ』な
気分は、その後二度と得ることは
できなかったのです。クラックの
せいで私は完全に破滅しました。
私は完全にクラックのとりこに
なっていました。」

クラック・コカインは、私の評判、
自負心、そして自尊心を粉々に
しました。」— ダイアン



クラック・コカイン：その歴史

コカインの原料であるコカの葉は、3000年もの昔から快楽を得る目的で使用されてきました。コカインを結晶化させたクラック・コカインは、1970年代のコカイン・ブームのさなかに開発され、1980年代の半ばにその乱用が広まりました。

アメリカ合衆国麻薬取締局によると、1970年代の後半、アメリカ合衆国にコカインの粉末が大量に持ち込まれました。これによりコカインの末端価格は8割も下落しました。このようなコカインの値崩れに直面した密売業者たちは、粉末のコカインを、喫煙できる粒状のものに変えて売り出すことを考え付きました。それが「クラック」です。

この形状のコカインは細かく砕いて少量ずつ販売することができるため、売り先が増え、利益もより大き

クラックは売人にとって理想的なドラッグです。使用した人がすぐにハイの状態になり、あっという間に常習者になってしまうからです。



なものになります。クラックは安価で容易に製造でき、使い方も簡単のため、売人の儲けを大幅に増やしてくれる薬物だったのです。

早くも1980年代前半には、ロサンゼルス、サンディエゴ、ヒューストン、カリブ諸島などでクラック・コカインの使用が報告されるようになっていました。

1984年から1990年の間に、クラック・コカインの乱用は爆発的に増加し、アメリカ全土にまん延しました。このようなクラックの「流行」により、アメリカ合衆国におけるコカイン中毒者の数も急激に増加しました。1985年には、クラックの常用者の数が前年の420万人から580万人に増加しました。



1986年末の時点で、クラックはアメリカ合衆国のすべての州に出回っていました。1987年には、4つの州を除くすべての州に出回っていると報告されました。以降、クラック・コカインの乱用は北米と南米の両大陸に広がり続け、ヨーロッパを始めとするその他の地域にまで入っていきました。

イギリスでは、2002年に薬物リハビリを求めるクラック・コカイン中毒者が前年比で50%近く増加し、クラックによる深刻な「汚染」が明らかになりました。当局の強制捜査により押収されたクラック・コカインの量は、2000年から2006年の間に74%増加したと報告されています。

ヨーロッパにおけるクラック・コカインの乱用は、主にハンプルク、ロンドン、パリの3つの大都市に集中しています。しかし、クラックによる汚染は、グアドループ島、仏領ギアナ、マルティニーク島というフランスの3つの海外統治領、さらにオランダの複数の外国人コミュニティにおいても深刻な問題になっています。



薬物の売人がよく使う誘い文句

+ 代の若者へのアンケートによると、薬物に手を出すようになったそもそもの理由として、55%が「周りの雰囲気になされた」と回答しています。彼らには「ダサい」と思われたくない、カッコよく見られたい、という願望があります。薬物の売人はそのことをよく承知しています。

売人たちは、友達のような顔をして近付き、親切を装って「いい気分になれるもの」を教えてあげると持ちかけてきます。その薬物を使うと「周囲から浮いてると思われなくなる」とか「仲間の中で目立てる」というのです。

薬物の売人はお金だけが目当てです。薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言います。例えば「クラックを1回やれば、何の悩みもなくなるよ」などと言ってくるでしょう。

売人は「お客さん」が払うお金にしか関心がありません。薬物のせいでその人の人生が台無しになっても気にしません。かつての売人たちは、薬物を買う人を「いいカモ」としか見ていなかったと証言しています。

薬物についての真実を知ってください。そうすれば自分自身で正しく判断できるはずです。



薬物についての真実

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量に違いがあるだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人の心にも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動は奇妙

だったり、不合理であつたりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物はすべての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。

本当の解決策は、
事実を認識し、
最初から薬物など
使用しないことです。



なぜ人は薬物を取るのでしょうか？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避するため。
- リラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかありません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



参考文献

European Monitoring Centre
for Drugs and Drug Addiction,
*State of the Drug Problem in
Europe, 2008*

U.S. Drug Enforcement Agency
Fact Sheet on Cocaine

National Institute of Drug
Abuse: *NIDA Info Facts: Crack
and Cocaine*, April 2008

2008年 世界薬物報告書
国連薬物・犯罪事務所

“Crack Facts & Figures,” Office
of National Drug Control
Policy, 2008

“Illicit Drug Use During
Pregnancy,” March of Dimes

“Research Report Series—
Cocaine Abuse and Addiction,”
National Institute on Drug
Abuse (NIDA)

“Drug and Alcohol Use and
Related Matters Among
Arrestees 2003,” Zhiwei
Zhang, Ph.D., National
Opinion Research Center

“Cocaine use among young
reaches shocking levels,”
thisislondon.co.uk

“Monitoring the Future,
Overview of Key Findings
2007,” NIDA

UN Office on Drugs and Crime
Annual Report 2008

DEA History Book, 1985-1990

“Crack ‘epidemic’ fuels rise in
violent crime,” The Observer,
17 Feb 2002

写真:
表紙: DEA/drugs; IFC: Corbis;
5、8ページ: DEA/drugs;
12ページ: Courtesy
Infomagination.org.

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに22の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。新しいドラッグが次々と世の中に回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっていきます。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

真実を知ってください：薬物

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤・吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

さらに情報を知りたい方、またはこの小冊子シリーズのいずれかをさらに何部かご希望の方は、下記までご連絡ください。



Foundation for a Drug-Free World
1626 N. Wilcox Avenue, #1297
Los Angeles, CA 90028 USA
drugfreeworld.org
info@drugfreeworld.org
1-818-952-5260

薬物のない世界のための財団
日本支部
〒170-0001 東京都豊島区
西巣鴨1-17-5
パークホームズ西巣鴨308
TEL: 03-5394-0284
Eメール: info@drugfreeworld.jp
drugfreeworld.jp